

インド金融政策（2025年2月）

約5年ぶりの利下げへ、追加利下げにも含み

2025年2月10日

景気見通しの下方修正は、追加利下げに向けた環境作りの公算大

インド準備銀行（中央銀行、以下中銀）は2月7日（現地）終了の定例の金融政策決定会合で、政策金利のレポレートを6.50%から6.25%に引き下げました【図1】。2020年5月以来、約5年ぶりの利下げとなります。今回は、24年12月に就任したマルホトラ新総裁の下での初の金融政策決定会合で、今まで市場の期待に反して利下げを見送っていたダス前総裁の方針からの変化が注目されました。蓋を開けてみると、金融政策委員会の委員6人全員が利下げに投票しました。待望の利下げが行われ、過度な金融引き締めへの懸念を後退させ、市場に安心感をもたらしています。

注目のインフレ見通しについて、中銀は今後1年程度の物価上昇率が中銀目標値の4%の近辺で推移するとの見通しを発表しました【図2】。カリフ（雨季）作物の収穫が良好であり、野菜価格の低下やラビ（乾季）作付けの良好な見通しなどを背景に、食品に起因するインフレ圧力が顕著に弱まると予想しています。インフレ動向を受け、金融政策は柔軟な運営が可能になるとの見方が示されました。

景気については、中銀は堅調な農業生産やサービス輸出、製造業の改善等を背景に、回復傾向にあるとの見方を維持しました。もっとも、都市部の消費に関して、中銀は2月1日発表の政府予算案での所得税減税策等を受け回復すると見込んでいるものの、現時点では抑制されているとしました。また、25年4-6月期と7-9月期の実質GDP成長率見通しはそれぞれ前年同期比+6.9%/+7.3%から同+6.7%/+7.0%へ下方修正され、若干の失望感に繋がっています。ただ、やや慎重な景気見通しは、追加利下げに向けた環境作りであり、利下げに含みを持たせたとも考えられます。今後、景気回復のペースが緩やかとなった場合、次回4月会合での追加利下げの可能性が高まり、株式市場にとって追い風になると考えます。

図1 主要政策金利および金利コリドー

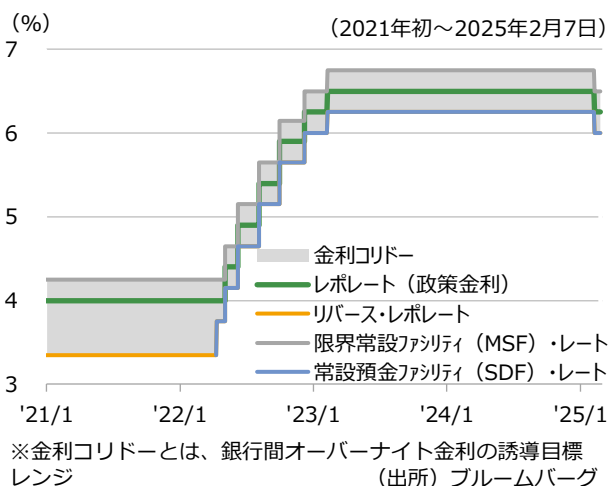
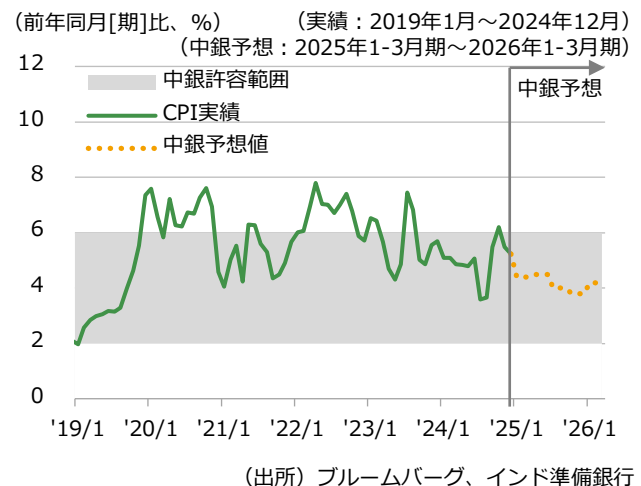


図2 消費者物価指数



当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。